

暗算について

暗算は、筆算の準備と考える傾向にあるが、筆算ができれば暗算はできなくてもよいという考えは、まちがいである。暗算は、筆算とちがった意味も持っている。

1. 暗算のよさ

- 実生活で活用する場面が多い。
- 「だいたい」で十分な場面が実生活には多くある。
- 「見当付け」や「見積もり」のとき、役立つ。
 - ・わり算の商を立てるときの見当付け。
 - ・計算のときおおよその見当をつけておくと大きなまちがいににならない。
 - ・結果を「だいたい」予想するときに役立つ。見通しを立てることができる。

2. 暗算と筆算のちがい

- 暗算は、位の高いほうから計算する。
- 筆算は、位の低いほうから計算する。

3. 暗算の指導について

- 筆算の準備だけではないことを十分おさえて指導に当たる。
- 視暗算と聴暗算がある。

どちらも位の高い方から確実に計算できるように指導に工夫が必要である。
- 視暗算の方が易しいが、**聴暗算**からの導入はどうだろうか。

(教科書には、視暗算がよく使われている。)

4. 聴暗算の指導例

(問題) $24 + 35$

指 導 者	児 童
「24たす」 ・ここで止めて、3～5秒待つ。	・このとき児童は、頭の中で「24」を自分なりにイメージする。
「さんじゅう」 ・ここで止めて、3～5秒待つ。	・このとき児童は、頭の中で「54」をつくる。
「ご」	・このとき児童は、頭の中で「54+5」をする。